



2021 ESG REPORT

なぜ IT に持続可能性が
求められるのか

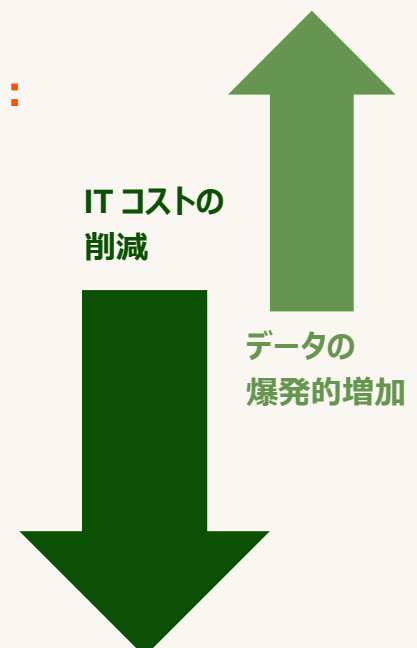


持続可能性（サステナビリティ）の 目標達成における IT の役割

気候変動への関心は、今や世界数百万社の経営会議で取り上げられるほどの広がりを見せています。お客様や同業者との会話の中でも、「持続可能性は、低炭素の未来に向けた対策とともに重要な課題である」といったことが話題に上がることが多くなっています。持続可能性への取り組みは、2021年にスコットランドのグラスゴーで開催された COP26 の合意文書に記されたように、世界的な趨勢となっています。

持続可能性の目標達成において、ごく最近まで、IT は明確な貢献をしてきませんでした。その背景には、IT 技術者が、IT コストをいかに低減させるか、急増するデータをいかに管理するかという課題の対処に追われていたという状況がありました。

IT のジレンマ：
対立する課題の
板挟み



ITインフラ、特にデータ・ストレージについては、従来から非効率性が指摘されてきました。この分野はまだ改良の余地が大きく、ベンダーがより効率的なテクノロジーを提供すれば、持続可能性の向上に大きな貢献ができるはずですが。そもそも、ハード・ディスクとハイブリッドなフラッシュ・システムでは、電力消費と設置スペースに関して非効率にならざるを得ません。それにもかかわらず、IT 分野および、ほとんどのストレージ・テクノロジー・ベンダーにおいては、持続可能性の実現よりも、性能とコストのバランスと増大するデータ量への対応に重点が置かれているのが実情です。

ピュア・ストレージは、IT 技術者を支援することで、この課題を解決します。ピュア・ストレージは、データ・サービスのスケーリングの難しさ、複雑さ、高コストといった問題を解消するために創立されました。FlashArray™ と FlashBlade® システムには、非効率なハードディスクではなく、効率的で高密度なフラッシュ・メモリを採用しています。これによって従来型プラットフォームの欠点を回避し、さらにソフトウェアとハードウェアの設計を精査することによって効率と性能を高めることに成功しました。モジュール型アーキテクチャと、継続的なアップグレードを可能にする Evergreen™ Storage によって、耐用期間が大幅に延びるとともに電子廃棄物が減少しています。

ピュア・ストレージは、IT コスト削減とデータ管理のニーズを満たすだけでなく、環境保全の目標達成に大きく貢献しています。ピュア・ストレージの FlashArray システムは、オールフラッシュ・システムの競合製品と比較して、同等の構成で温室効果ガスの放出を最大 84% 削減できます。

ピュア・ストレージが先頃発表した [2021年環境・社会・ガバナンス \(ESG\) レポート](#)に記載されたとおり、持続可能性サービス企業 WSP の専門家による使用段階の分析¹により、FlashArray は、同等の規模と性能を持つ他のオールフラッシュ・システムと比較して、CO₂ の放出を大幅に削減することが明らかになっています。具体的には、FlashArray システム 1 台で年間 52,775 kg の CO₂ 削減が可能です。競合の耐用年数 5 年のストレージ・アレイと比較すると、263,875 kg の CO₂ を削減することになります。

¹：ここに記載した使用段階分析は、現在第三者機関による検証中です。

FlashArray による CO₂ 削減量

米国環境保護庁の計算で
FlashArray 1 台の 5 年間の CO₂ 削減量を換算すると...



1,067,269 キロ

一般的な乗用車が 1,067,269 キロ走行

26X 乗用車 1 台が地球を 26 周する距離 **550+** 550 台の乗用車が 1 か月走行を停止した場合の削減量



112,389 リットル

乗用車 2,100 台分のガソリン



4,365 本の樹木

4,365 本の樹木を 10 年間育成 (排出相殺に要する期間)



ピュア・ストレージ製品の耐用年数は、アップグレードを可能にする Evergreen ストレージ・アーキテクチャによって、競合のストレージ製品と比較して通常 2 倍から 3 倍になるため、CO₂ の削減効果はさらに大きくなります。他のストレージ・システムは、そもそもモジュラー性と持続可能性を重視して設計されていません。

ピュア・ストレージのソリューションは、以下のような事例をはじめとする多くのお客様において、ストレージをシンプルにすると同時に環境目標の達成に活用されています。

- ・ **ハイパースケイラー**：最大規模の AI ラボの建設と同時に持続可能性の向上を目指す
- ・ **大手金融サービス**：炭素排出量削減と同時にコストの効率化と IT の SLA 向上に取り組む
- ・ **グローバルなテクノロジー・パートナー**：自社および顧客の炭素排出量削減に取り組む

2021 年の ESG レポートでは、ピュア・ストレージの自社における持続可能性と炭素排出量削減に向けた変革についても説明しています。

「私は、ピュア・ストレージ、パートナー、お客様における持続可能性の達成に対して責任を持って取り組んでいます。このレポートは、ピュア・ストレージの製品が、IT とデータ・ストレージにかかわる電力消費、設置スペース、廃棄物の削減にどのように役立っているかを理解していただくために編纂されました。ピュア・ストレージは、現状に甘んじることはありません。より大きな貢献を目指して、イノベーションと製品開発を継続します。」

ピュア・ストレージ 会長兼 CEO **チャールズ・ジャンカルロ (Charles Giancarlo)**



ピュア・ストレージ・ジャパン株式会社
お問い合わせ：03-4563-7443 (代表)
<https://www.purestorage.com/jp/contact.html>

©2022 Pure Storage, Inc. All rights reserved. Pure Storage, 「P」のロゴ、FlashArray、FlashBlade、Pure1、Evergreen は、Pure Storage, Inc. の登録商標です。その他記載の全ての名称は、それぞれの所有者に帰属します。PS2240-01 03/2022

ピュア・ストレージの炭素排出量削減目標

(ESG レポートに記載)

50%

市場ベースのスコープ 1 および 2 の温室効果ガス排出量について、2020 年度から 2030 年度にかけて従業員 1 人あたりの原単位を 50% 削減

0 ネット
ゼロ

スコープ 1 および 2 の市場ベースの排出量について、2040 年度までにネットゼロに削減

66%

スコープ 3 の排出量について、2020 年度から 2030 年度の間に出荷した製品の有効容量ペタバイトあたり原単位を 66% 削減

ピュア・ストレージは、他のストレージ・テクノロジー・ベンダーが、私たちに続いて炭素排出量の削減を支援する製品を設計し、顧客の環境保護目標の達成に貢献することを願っています。

ピュア・ストレージは、お客様の持続可能な事業目標達成を支援しています。

Pure 2021 ESG レポートをダウンロード